

### 3. 愛知県の現状 (平成 22 年度学校保健統計調査結果より)

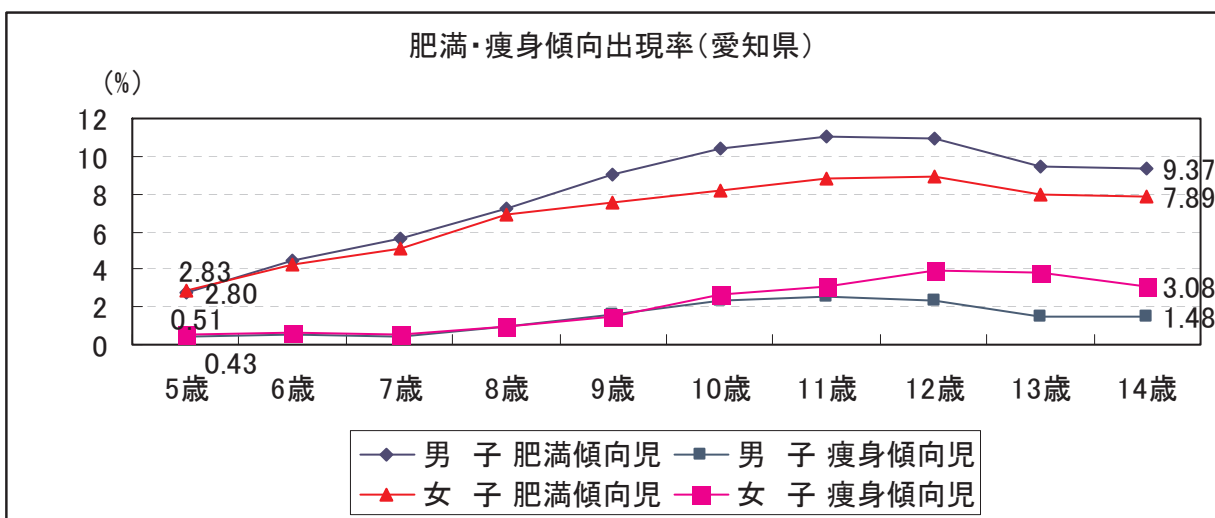
身長 cm					体重 kg						
区 分		男 子		女 子		区 分		男 子		女 子	
		愛知県	全国	愛知県	全国			愛知県	全国	愛知県	全国
幼稚園	5 歳	110.6	110.7	109.3	109.8	幼稚園	5 歳	18.7	19.0	18.2	18.6
	6 歳	116.5	116.7	115.5	115.8		6 歳	21.2	21.4	20.8	21.0
小学校	7 歳	122.4	122.5	121.5	121.7	小学校	7 歳	23.9	24.0	23.5	23.5
	8 歳	127.9	128.2	127.5	127.4		8 歳	26.8	27.2	26.3	26.5
	9 歳	133.1	133.5	133.3	133.5		9 歳	29.6	30.5	30.0	30.0
	10 歳	138.4	138.8	139.4	140.2		10 歳	33.6	34.1	33.2	34.1
	11 歳	144.6	145.0	146.3	146.8		11 歳	37.5	38.4	38.3	39.0
中学校	12 歳	151.7	152.4	151.7	151.9	中学校	12 歳	43.0	44.1	43.1	43.8
	13 歳	159.8	159.7	154.5	155.0		13 歳	48.7	49.2	46.5	47.3
	14 歳	164.9	165.1	156.1	156.5		14 歳	53.8	54.4	49.5	50.0

肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率 (%)

区 分		男 子		女 子	
		肥満傾向 児	痩身傾向 児	肥満傾 向児	痩身傾向 児
幼稚園	5 歳	2.80	0.43	2.83	0.51
	6 歳	4.46	0.48	4.23	0.62
小学校	7 歳	5.62	0.42	5.13	0.53
	8 歳	7.20	0.95	6.90	0.93
	9 歳	9.06	1.59	7.51	1.50
	10 歳	10.37	2.36	8.13	2.61
	11 歳	11.09	2.55	8.83	3.08
中学校	12 歳	10.99	2.30	8.92	3.92
	13 歳	9.41	1.53	7.96	3.84
	14 歳	9.37	1.48	7.89	3.08

平成 22 年度の「学校保健統計調査」では、肥満傾向児の出現率は、愛知県でも全国と同様に男子の方に多く、年齢では男子は 11 歳で、女子は 12 歳で最も高く認められます。

一方痩身傾向児の出現率は、中学生の女子に多く、男子が 11 歳、女子が 12 歳で最も高くなっています。



## 6年生の健診とアンケート結果から

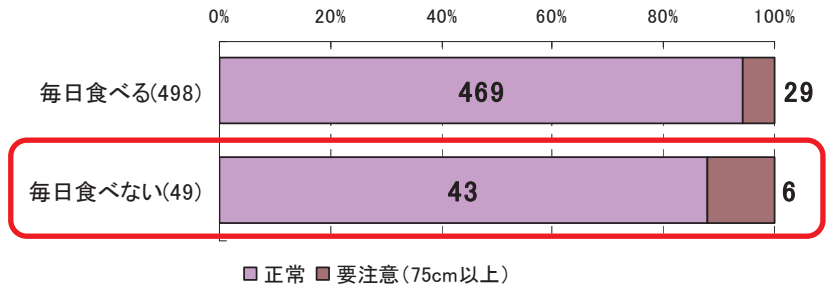
碧南市では健診受診時の生活習慣アンケートと健康診断の結果を比較しました。

「朝ごはんを週に何回食べますか？」という質問に7日（毎日）と答えた児童は498人（91.0%）でした。

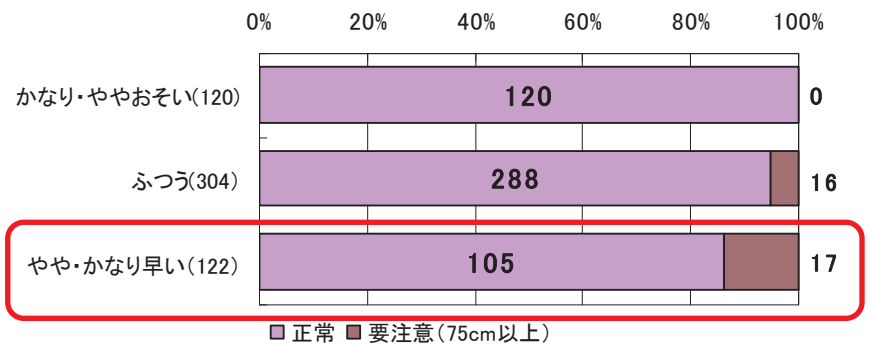
「食べるはやさはどれくらいですか？」の質問には122人（22.3%）の児童が「やや早い」あるいは「かなり早い」と自覚しています。

規則正しく、よく噛んで食べることは肥満や生活習慣病予防にも重要です。

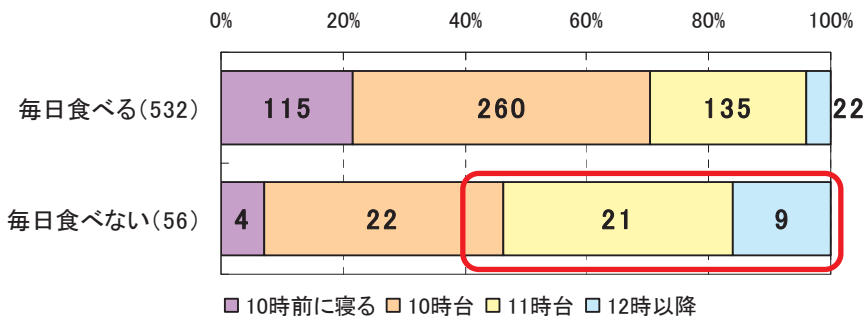
朝食の頻度と腹囲の関係



食べるスピードと腹囲の関係



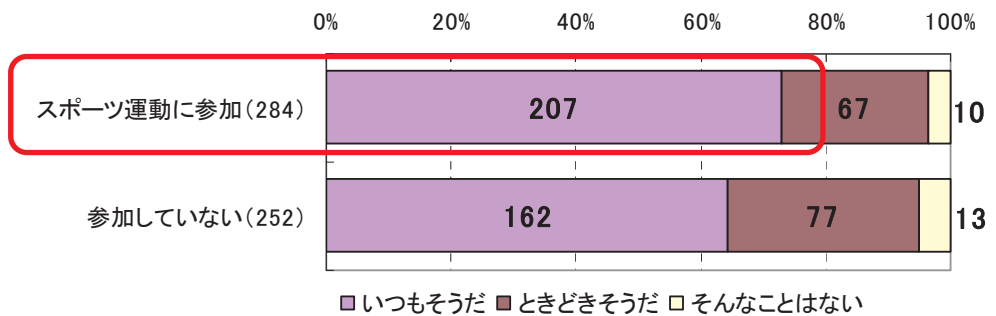
朝食の頻度と就寝状況



朝食を毎日食べる習慣がない児童に就寝時間が遅い子が目立ちます。

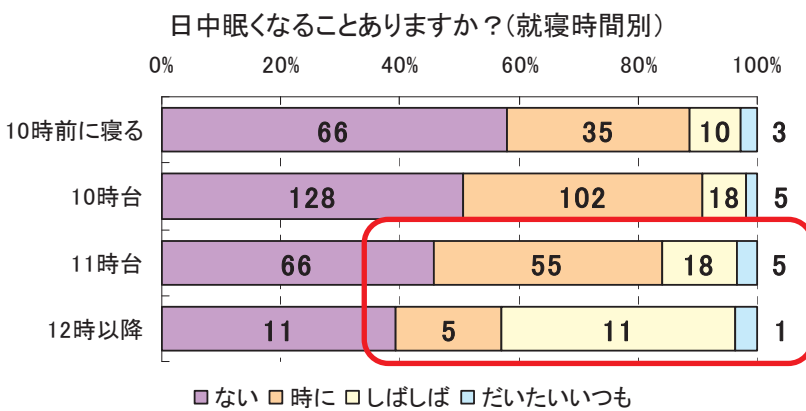
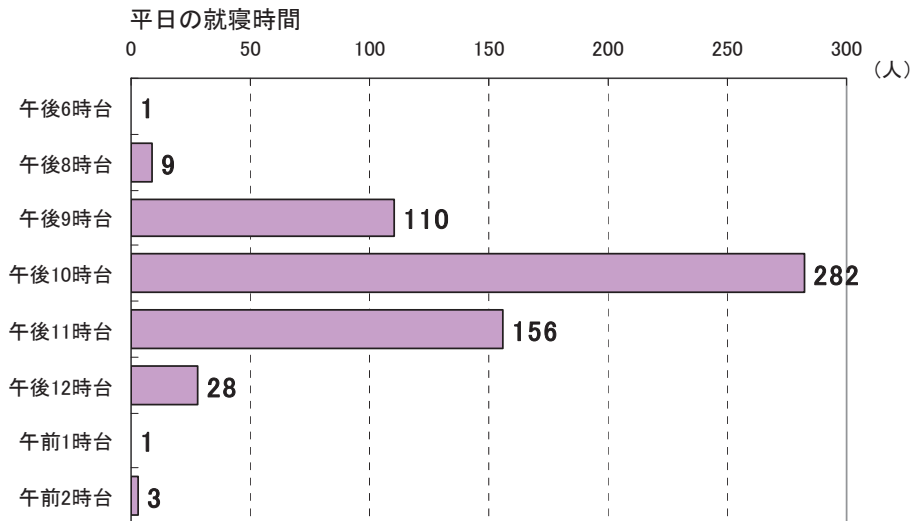
また、スポーツや運動に参加している児童に食事が楽しいと感じている子が多くみられます。

食事が楽しい？(スポーツ、運動の参加の有無別)

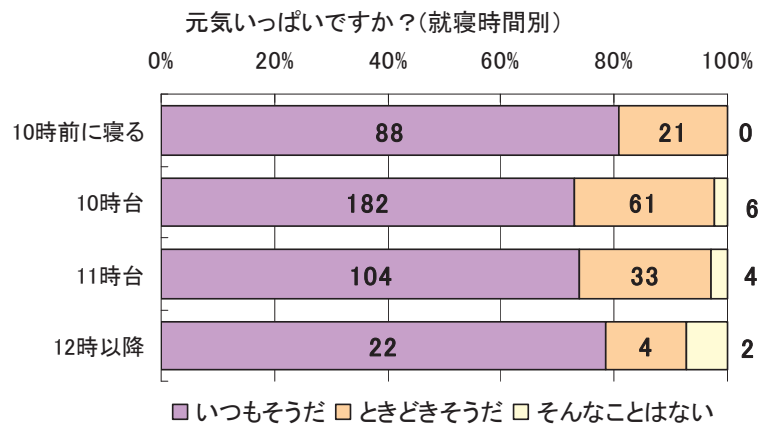


「夜はだいたい何時ごろ寝ますか？」という質問には午後 10 時と答えた児童が最も多く 282 人 (47.8%) でした。中には午前 0 時過ぎになる児童も 32 人 (5.4%) ありました。

十分な睡眠はからだの発達・発育にも重要で、また睡眠不足は日中の活動にも影響します。アンケート結果でも、遅く寝る子ほど日中眠くなる子の割合が多く見られました。



就寝時間が遅くなる児童ほど、日中眠くなることがあると答えています。



(碧南市における学童期生活習慣病対策事業報告書より引用)

## 第4章 地域での連携にあたって

- ・学童期の対策には、学校保健と地域保健の協働した事業展開が有効です。
- ・それぞれの機関の役割分担を明確にして、活動に臨みます。
- ・なかでも進行管理をする事務局の役割がとても大切です。

### わが国の学校健診の特徴

わが国の学校健診は、事前の保健調査票の記入（家庭）、身体計測や視力、聴力の簡易測定（養護教諭や担任）、心電図や検尿、寄生虫検査（検査機関）そして学校医や学校歯科医の診察（地域の医師会、歯科医師会）など、学校を中心とした地域の関係機関が協力した体制で実施されています。

学校健診は、学校保健安全法に基づいており、その施行規則には健診で検査される項目が定まっています。血液検査、血圧測定、腹囲測定など規則に明記されていない項目を盛り込むには、教育委員会や学校現場の事業に対する理解、医療的な立場での検査や判定を行う医師会や保健機関・検査機関などの協力など地域の関係機関の連携が必要です。

### 連携のコーディネート組織

多機関が連携して事業を進めるためには、事業推進のための各機関の共通理解を取り付け、役割を明確にするコーディネート組織が必要です。コーディネート組織では、事業の企画、実施とその評価についても検討することが大切です。

### 碧南市での地域連携の実際

碧南市では、医師会や保健センターを中心として「健康を守る会」という組織活動が昭和42年から行われています。その活動のひとつとして学校健診の機会に血液検査や栄養調査を行う「生活習慣病若年化対策事業」が続けられてきました。今回のモデル事業は、既に長年培われた地域での関係機関の連携の土台があったことが、事業の円滑な推進にとっても有効でした。碧南市では小学校4年（と中学校1年）には血液検査を受けることが、家庭も含めた地域での了解事項であったわけです。ただ、空腹時の採血や事後に市内の体育館や公民館などで保健指導コースの実施は、はじめてのことでした。このため、

コーディネート組織として、教育委員会や校長会、医師会、検査機関、保健センター、愛知県、保健指導の技術協力を行った愛知県小児保健協会の代表者からなる「作業部会」を立ち上げました。その事務局作業を市の健康課が担い、機関間の意見の調整や進行管理によりモデル事業は円滑に実施されました（図4.1）。

栄養教諭の配置されている場合には、養護教諭とともに学校現場での役割が期待されます。

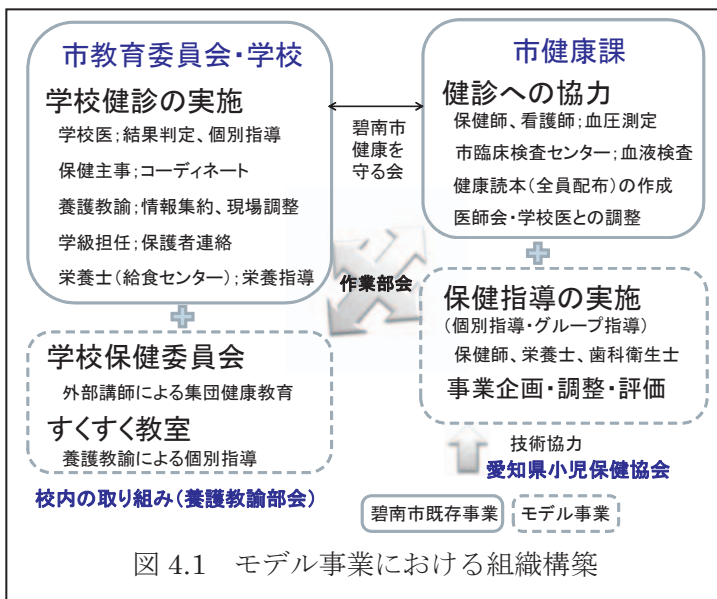


図 4.1 モデル事業における組織構築

## 学校現場における関係者の役割

コーディネート組織での検討の結果を踏まえ、学校現場や事後指導としての保健指導教室では、各機関がそれぞれの役割を分担します。

### 1) 学校医等

学校医や学校歯科医は、専門的な立場から健診と指導にあたります。

健診で実施すべき検査項目や判定基準、問診内容について、医師会・歯科医師会などの部会等などでも取りまとめて、保健機関等に助言します。

学校医は、学校健診で定められた項目の判定とともに、判定基準に沿った判定を行います。健診後の学校での個別相談時に、保健指導の対象者に直接指導することもできます。

要受診者が医療機関を受診した際には、精密検査や必要な診察等を行うとともに、保健指導コースに参加するように勧奨することが大切です。

### 2) 保健機関

市区町村の保健センターや保健所は、コーディネート組織の事務局としての役割が期待されます。

医師会や歯科医師会の学校医部会との連絡調整、教育委員会・学校との協議、事業を支援する大学などの専門機関との調整など事業にかかわる機関間のコーディネートは、事業の要となります。

また、親への問診票や各種の帳票類の準備は学校医等や専門機関の助言のもとに行います。健診現場では、看護師や保健師が血圧測定を行い、検査機関の血液検査、腹囲測定をサポートします。健診結果の集計も大切な役割です。

保健指導コースの企画、実施、評価は事後指導の中核となります。夏・冬・春休みに体育館や公民館などの施設を利用した親子で取り組む指導コースを実施します。保健師による個別指導とともに栄養、歯科、運動などのメニューを取り入れることができます。

### 3) 学校長

学校現場の責任者として、保健主事や教務主任などとともに、健診実施日の授業内容の変更や職員の配置体制などを決めます。

### 4) 養護教諭

学校現場での事業の中心的役割を担います。血液検査や腹囲、血圧測定時の現場調整、学校健診としての体重・身長測定とともに、保健指導コースの対象者への参加勧奨と不参加者の把握を行います。

学校保健委員会や保健だより等を利用して、児童・生徒と親を対象とした健康教育を実施します。

保健指導コースに不参加の児童に対して、保健室での個別指導を行うことができます。個別指導の策定にあたっては、養護教諭部会全体で取り組み保健機関や専門機関の支援を受けることも有効です。

### 5) 栄養教諭・栄養士

保健指導コースでの栄養に関する教室の実施や、養護教諭と連携して保健室での個別の指導にあたります。

### 6) 学級担任

児童や保護者への連絡や児童の日々の健康状況の把握など大切な役割を担います。印刷物の配布と回収、気になる児童への毎日の学校生活での声かけ、保護者からの相談など、管理職や養護教諭・栄養教諭など校内での連携を取りながらの指導が可能です。